

緊急講演会 開催のご案内

原発の時代は終わった！

- 福島第一原発事故が教えてくれたこと -

とき：2011年4月9日（土）18時30分～

ところ：余市町中央公民館 大ホール **入場無料**

託児室を用意しています。 放射能で最も被害を受けるのは、乳幼児や小さな子どもたちです。そして、これから子どもを産む可能性のある若い人たちにも大きな影響があります。ぜひ、子育て中のお母さんたちにこそ、聴きにきていただきたいと考えています。

講師：齊藤武一さん（岩内原発問題研究会代表）

紙芝居での分かり易い解説を、スクリーンで映します。

齊藤さんは、泊原発の環境への影響を調べるため、一市民として30年以上、どんな嵐の日であろうと波にさらわれそうになりながらも、毎日海水温を計り続けてきました。元保育士、現在学習塾経営。著書に「木田金次郎 山八空へモレアガル」、「海の声を聞く - 原子力発電所温排水の観測25年」、「理想の保育園 - 障害児は神様」があります。



主催：泊原発を止める会（代表：牧野時夫 0135-22-7431）

ここ余市は、泊原発まで30キロ圏内という至近距離にあります。福島第一原発の事故で、高濃度の放射能汚染によって屋内退避勧告が出され、自主退避が望ましいとされた範囲（3月25日現在）に相当します。しかし、万が一、泊原発で事故が起きた時の対応なども、地元4町村（泊村、共和町、岩内町、神恵内村）とは違って何も知らされてはいません。泊の沖合いには、最近になって大きな活断層が発見されています。この一帯ではしばらく地震を起こしていないので、マグニチュード7.5クラスの大地震が起きる可能性も十分にあると言われています。その時には今回の福島と同じようなことが起こってもおかしくはないのです。北電では、十分な対策を施して、地質も十分に調査していると言っていますが、その言葉をそのまま信用することはできません。

また、事故が起きなくとも、泊原発からは放射能が出続けています。放射能の数値的には大きなものではありませんが、泊周辺ではガンの発生率が極端に高いという恐るべきデータも齊藤武一さんは明らかにしています。どうか、テレビでは報道されない（できない）原子力発電所の実態を知ってください。今こそ、すべての生命を危険にさらす原発を止めて、新たな脱原発社会をどのように築いていくかを、皆で考えて行きましょう。